



日学・黒板アート甲子園®2022 ジュニアの部 最優秀賞 松田中学校美術部『神奈川東海道遠望ノ圖』

学習する生徒が主役となる授業づくり ～学ぶ力を育てる学校へ～



学ぶよろこび

私たちが目指したのは、
学習する生徒が主役となる授業づくり。
今日の授業でできたことを
嬉しそうに話す生徒の笑顔のために、
授業を変え続けていきます。
生徒とともに作りあげる、
心ときめく授業。

自立・創造・共生

予測不可能な時代に必要なのは、
自ら考え、主体的に行動して、
責任をもって社会を創り出す力。
すべての学びをとおして、
その力をもっと伸ばしたい。
学校教育目標「自立・創造・共生」には
その想いが込められています。



学び続ける教師

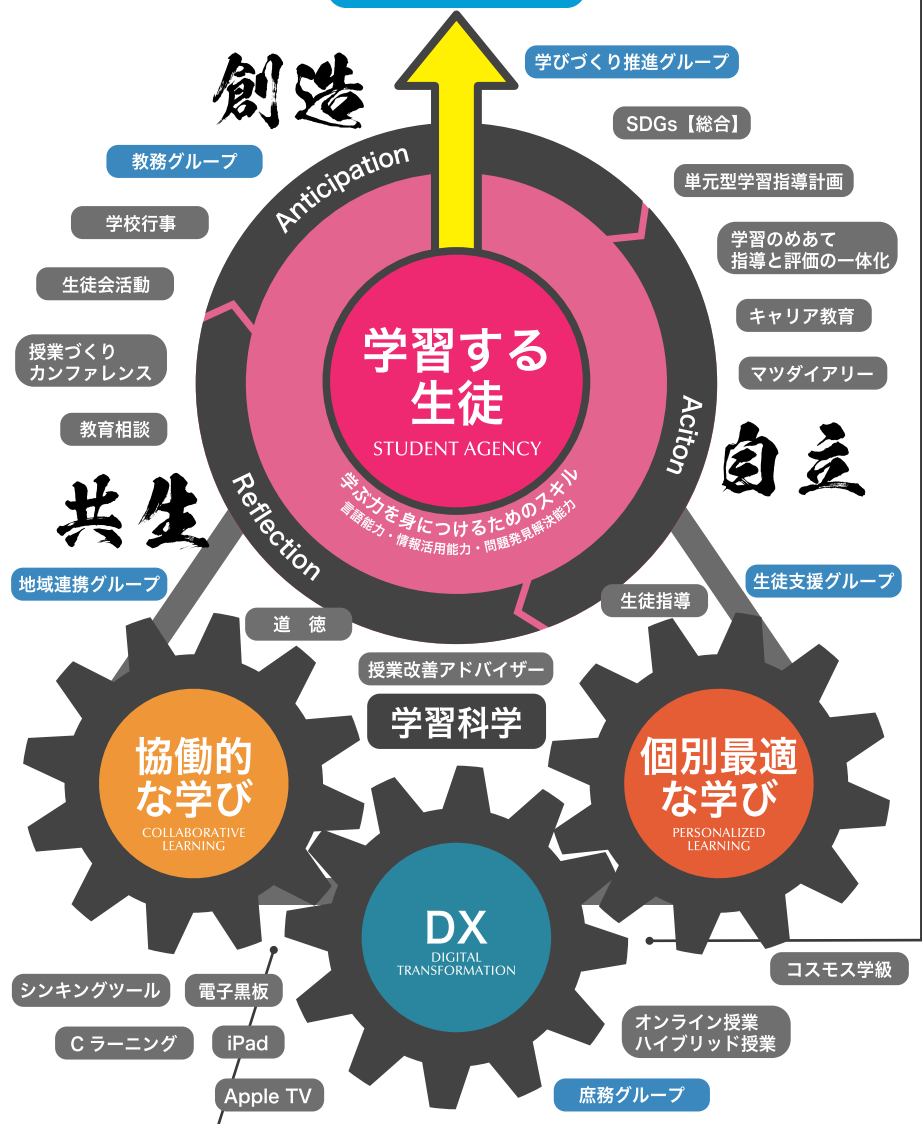
松田中学校が育成を目指す
これからの時代に必要な力は、
教師にとっても必要な力です。
松田中学校が目指す教育の実現を
生徒に託すだけでなく、
教師も生徒とともに学び続け、
本気になって一緒に取り組みます。

VISION "M"

松田中学校で
未来に向かって
学ぶよこび。

資質・能力
COMPETENCIES

非認知能力 **学ぶよこび** メタ認知能力



個別最適な学び **DX**



学習プロセスをCラーニング（授業支援システム）で共有することで、友達の間取り組みを参考にしながら学習を進めることができます。授業を欠席したときに、その進み具合などを知るのにも役立ちます。自宅からCラーニングにアクセスすることで、学習内容を振り返ったり、次の授業の見通しを立てたり、じっくり考えてコメントやレポートを編集したりできます。



協働的な学び **DX**

自分が考えたことと他の学習者が考えたことを比較し、導き出した「解」の妥当性について検討することで学びはさらに深まります。Cラーニング（授業支援システム）やタブレット型端末を含めた様々なツールや方法の中から、考えたことを共有するのに最も効果的なものを選択して学習を進めます。



単元デザイン

生徒のワクワクが続き、
学びを生かそうとしている —。

私たちが目指すのは
そんな単元デザインです。
単元の先に思い描く、
成長した生徒の姿。

その実現に必要な
魅力ある「問い」を考えます。



グループ検討会

教科の枠を越えて、
グループで行う授業検討会。
異なる教科だからこそ
気づくことや、
学び合えることがあります。
「みんなで一緒に考える」
これが最も重要です。



授業づくり カンファレンス

授業の主役は、学習する生徒。
だから、授業づくりについて
生徒と一緒に考えたい。
授業に参加する者が
みんなで考える授業研究会。
それが、松田中学校の
「授業づくりカンファレンス」

単元デザイン例

理科 (2年)
「発熱反応・吸熱反応」

知識・技能

知識・技能

知識・技能

知識・技能は必要かつ効果的なタイミングで扱い、知識・技能の習得のためだけの授業としないようにします。

課題をつかむプロセス

学習に必要なスキルを身につけて、解決の見通しを立てるプロセス

単元の中心となる問いを解決するプロセス
解の妥当性について、他の学習者と比較して確かめる

解決の内容を共有・評価し、単元や題材で学んだことについて省察するプロセス

【導入】
化学の力で火災事件を解決できるか？

【問い①】
熱がないところから、熱が発生する謎を説明できるか。

【問い②】
火災現場の状況から情報を集め、原因を突き止めて説明できるか。

問いをどのように解決したかや、そこから何を学んだかについて振り返る。

資質・能力を育成するために最も効果的な学習のプロセスをデザインします。

単元デザインをもとに、学びのプランを作成します。

学習の段階	学習のめあて	評価規準と評価方法
I 1時間目	I 導入 「化学」の力で事件を解決せよ！ 1. 火災事件の内容を確認する。 火災事件の内容（農家の倉庫で発火） 生石灰（酸化カルシウム）と水の発熱反応で発生した水酸化カルシウムにアルミ粉末が反応し発熱反応を起こし、発火する。さらに、その変化で発生した水素に火がつき、さらに火が強くなった。 →火災事件の内容を確認し、解決すべき課題を確認する。 2. この段階での事件の推理を立てる。 →Cラーニングで最初の推理を残しておく。 ※いきなりこの課題に挑戦するのは難しいので、これを解決するために必要な能力を習得する流れに持ち込む。	【学ぶ力を身につけるためのスキル】 解決 問われている課題をどのように受け止めたのか表現する。
	II 知識の習得 「事件解決に向けての知識を習得せよ！ 熱が無いところから熱が発生する謎を説明できるか？」 1. 火災事件の解決に向けて、簡単な事件に挑む。 幼児のやけど事件 鉄粉と炭素の混合物に食塩水が混ざることによって熱が生じ、それを触れた幼児がやけどをした。（鉄の酸化） 2. 事件の情報から推理を立て、検証実験を行う。 3. 検証実験の結果を分析する。 4. 分析結果をもとに今回の事件の真相をまとめる。 →3, 4はワークシートに記入する。 次の授業までにCラーニングで知識を確認し、理解をする。 →発熱反応と吸熱反応について	【学ぶ力を身につけるためのスキル】 情報 情報の内容を比べて、よりよいものを選び出す。
III 4時間目 (本時)	III 課題解決 「化学の力で事件を解決せよ！ キミは火災事件を解決できるか？」 1. 火災事件の内容を再確認する。 2. 火災事件の手がかりとなる物質を考える。（情報収集） 3. 事件の原因の仮説を立て、ヒント動画から検証を行う。 →仮説を立てて検証するという流れを繰り返し、信憑性の高い仮説を導き出す。	【学ぶ力を身につけるためのスキル】 解決 課題を解決するためのいくつかの提案を比べて検討する。 ③（行動の観察）
	3. 事件の原因の仮説を立て、ヒント動画から検証を行う。 →仮説を立てて検証するという流れを繰り返し、信憑性の高い仮説を導き出す。	
	4. 最終的に導き出した仮説を共有する。 →Cラーニングを活用し、共有を行う。	
5時間目	5. 共有した仮説の中から1つの仮説を導き出す。 6. 事件の仮説実験を見て実際に起きた現象について確認をする。 7. 今回の事件について自分の言葉でまとめる。 →ワークシートに記入する。	②(ワークシートとCラーニングの記述内容の分析)
IV 7時間目	IV 単元の振り返り 「熱が生じたメカニズムを科学的に説明できるか？」 1. レポートでこの学習で学んだことを熟考する。 I 熱が生じるメカニズムについて説明する。 II 最初に立てた推理と最終的に導き出した仮説を見比べてどのように変化したかを確認する。 III なぜ②のようになったのか分析する。 ※II→IIIの課程で考えを整理するシンキングツールを活用する。	①（レポートの記述内容の分析） ③（レポートの記述内容の分析）

課題をつかむ

問われていることは何？

これからはじまる単元や題材で取り組む学習課題は何でしょうか。そして、その課題を解決するためには、何ができるようにしなければいいのでしょうか。何を、なぜ学ぶのか、単元の最初にみんなで一緒に確認するところから始めましょう。

問いを解決する

キミは、どう解決する？

答えは覚えるものではなく、導き出すもの。身につけた知識や技能を使って、問いをどのように解決するかを考えます。解決のしかたがそれでよいか、他の人の考えと比較することも大切です。考えたことの伝え方も工夫しましょう。

振り返る

この単元で学んだことは？

中心となる問いをどのように解決したかや、そこから何を学んだかを振り返ることで、学びは深まります。重要なのは、振り返りを意識しながら学習を進めることです。振り返りを意識することで、学ぶ目的などがはっきりとします。

学ぶ力を身につけるためのスキル Ver. 1.0

	発信する	処理する	受け止める		
言語	受け手に伝わりやすい表現を工夫して発信する。	伝えたい内容を表現の仕方とあわせて組み立てる。	受け止めた内容の意味を、自分の表現に書き直す。	発信者の想いや意図を想像する。	言葉や記号などの意味を確かめながら受け止める。
情報	身の回りや社会をよりよくすることを狙って発信する。	発信したい内容を、表現の仕方とあわせて組み立てる。	集めた情報の内容を、自分の表現に書き直す。	情報の内容を比べて、よりよいものを選び出す。	どのような情報が必要かを考えて収集する。
解決	課題をよりよく解決できる内容で提案する。	よりよい内容が提案できるように、表現の仕方とあわせて組み立てる。	課題を解決するためのいくつかの提案を比べて検討する。	解決方法について、複数の見通しをもつ。	問われている課題をどのように受け止めたのか表現する。

「言語」とは、言葉だけでなく、地図の記号、数字、図形、数式で用いられる記号、化学記号、音符、色、トーン、ピクトグラム、身体表現、眼差しなど、非言語コミュニケーションの要素を含むあらゆるコミュニケーションツールをさしている。

学ぶ力を身につける

同じ学習内容でも、どのように受け止め、処理し、発信するかによって、学びの質は大きく変わります。

「受け止める・処理・発信」のそれぞれの段階で、生徒にどのように学ぶかについて、目指してほしい方向を示しています。

これから始めたいことは…

“学ぶ力”を育てるために

単元で最も重要な「**学ぶ力を身につけるためのスキル**」を生徒と確認して学習に取り組むことで、どの教科にも共通して必要な「学ぶ力」の育成を目指します。

学びのプランを生徒とともに

教科ごとに特色ある単元デザインを考えて、どのようなゴールに向かって学ぶのかやゴールまでのプロセスを「**学びのプラン**」として学習者と共有できるように工夫します。

“受け止める”を大切に生徒

学習のさまざまな場面での「受け止める」を意識し、「何を、なぜ学ぶのか」について考えながら学習を進めます。学習の結果だけでなく、そのプロセスを大切にします。

なぜ学校で学ぶのか

松田町立松田中学校 校長 岩井隆豪

教師が生徒に知識や技能を教え込むような授業では、これからの時代を生きるのに必要な資質・能力を身につけるのが難しくなりました。そして、コロナ禍をきっかけに、「なぜ学校で学ぶのか」があらためて問われています。私たち教師に求められているのは、生徒が向き合いたくなるような問いを生み出し、その解決を目指して生徒が力を発揮できるように導くことです。一方、生徒は受け身の姿勢で学ぶのではなく、「なぜ学ぶのか」を意識し、みんなで力を合わせて問いの解決に取り組むことが大切です。

よりよい授業をつくるために教師と生徒が共に考え、学び続けることができる松田中学校の実現のために、これからも意欲的に授業改善に取り組んで参ります。

一歩先を見る眼を

授業改善アドバイザー 三浦修一

「授業の主役は生徒」という考え方が共有されるようになったのは、ここ数年のことです。1947年以降、学校では「3R's」が大事にされてきました。それが「戦後の経済成長」を支える原動力の一つであったことは誰もが認めることです。けれど、時代が大きく変わったのに、学校だけが変わっていないのではないかという批判が強くなりました。ではこの先、何を指すべきでしょうか？一つは「4Cs」です。そしてもう一つは、インクルーシブの根底にあるべき、ダイバーシティです。「いい成績」という単一の目標ではなくて、一人一人が認められる学校です。そういう次の時代のあり方を考えるヒントが、松田中学校にはありませんか？私はそう信じています。

松田中学校学びづくり ビルディングブロック構想



主体的・対話的で深い学び

